

## 令和5年度まちかどミーティング会議録

開催日 令和5年10月24日（火）

地 区 元中野町・旭町地区

会 場 元中野町総合福祉会館

### <意見交換>

◆市民 船見町の・・・でございます。

毎年何かいろんなことを言ってね、あれなんですけど。私のところ、1人1項目ということなので、いろんなこと本当は最初に答えたこととかを全部話そうかと思ったんですけども、一番問題になってるのが子供のことなんですよね。子供のことで、一応船見町、今小学校が7名、中学校が7名、14名しかいません。これ、小さい子供はもっというと思います。全体に回した夏のお祭りでは、小さい子供がたくさん来てくれましたし、それから、いろんなことをやっても、小さい子供が来てくれますので、子供のことにやはり絞っているような関係をしていますので、お話をしたいと思います。

まずなんですけども、船見町にいる子供は1年生になったら、どうしていなくなるかという、小学校が遠過ぎるからなんです。あまりにも遠いし、交通手段がないです。歩いていくには遠過ぎます。それで、みんなアパートとか何かは今、すごくできていますけども、そこにいる子供たちの中で出てる子供たちというのは、財政的な余裕のある子供たちは、みんな出ていっちゃいます。

だから、そのたびに小さい子供たちは幼稚園で迎えに来ますけども、それ以外の子供たちはみんな出ていっちゃいます。だから、交通手段がまずない。老人も同じなんですけど、交通手段がない。これはもう非常に困るところでありますし、いつも言っている40キロのところを20キロ、私、写真の撮ったやつもやったんですけど、通学路が40キロなのはおかしいんじゃないかというふうな感じで言っていますけども、その辺も含めて、例えば新中野との間で歩道の幅を見ていただくと分かるんですけども、全然幅が違います。歩道側の狭い中で、とてもじゃないけど子供は通学路を通せません。だから、そういうふうなところがあって、まず、一番目の問題の通学路の問題が出てくるんですけども。

あと、私、去年中学生にちょっと勉強を教えてくれないかという話がちらっとあったんで、いいよという話をしたんですね。そうしたら、中学校に行ってみたら、その子についてどうしてかと話を聞いたときに、ちょっと言えないんですけども。

私たちもよく分からなかった部分はあるんですけども、学校が全然その人の家庭のこととか、そういうことが分かっていないところがあります。というのは、なぜかという、彼はヤングケアラーなんです。

それだけで、我々から言ったら、内申点を上げてくれてもいいんじゃないかと思うような感じがするのに、その辺が全然ですし、それから、小さな子供さんにしても、我々ちょっと大会のと

きやお祭りもやりましたから、これは案内を全戸配布で町内会に入っていない人もみんな配布しました。

そしたら、やはり小さい子供さんはある程度参加してくれて、いろんなことをやっていただきましたので、ある程度いると思います。ただ、1年生になるといなくなるというのは、今年1年生が入ったのは、うちからは一人です。来年、中学3年生、卒業するのが三人いますので、とてもじゃないけども、うちの中ではまた子供が減ります。そうしたら、この3年間で七人ぐらい減っちゃいました。だから、こういうふうに、まずはうちの大問題としては、交通事情、学校が遠い、これが一番の問題であると思います。

あとは、子供たちがどんな状態かというのは、今、個人情報関係で、学校に行っても、何をやっても教えてもらえません。だから、はっきり言って、いろんなことが私たちも分からない。周りも分からない。たまたま今回は、私が勉強を教えてくれないかなんていう話になっちゃったから、話を聞いただけで、全然その辺が分からないというのが現状です。

ですから、この辺を含めて、交通事業とか何かも含めて、私なんかはすごくいいと思うのは、今、駅からあそこまで無人のバスが走ってますでしょう。ああいうものがやっぱり船見町辺りも走ってくれれば、非常にありがたいなと、未来志向としてありがたいなという感じがします。

やっぱりもう一つ、子供の問題で今年考えたのが、小学校5年生からかな、プログラムをやるようになりました。私もプログラムをやっていたこともありますので、それで、簡単なもの、去年の問題を見たときに、はっきり言って、プログラム自体をアルゴリズムは中学校、今の3年生は解けないと思うんです。

だけど、25年から大学入試がプログラムの問題が入るそうですので、だから、その辺も含めて、ラピダスがここまでいろんなことでできるわけですから、そういう人たちをやっぱり育てていくことがすごく大事だと思うんですね。

ですから、そういうことに対して、私、無理を言って、去年科学センターからAIのやつを一つ借りて、別にプログラムで組んだやつで動して、そうやって5月に子供たちとやって、五人の子供が一応はやってくれました。分かっている子はある程度分かります。だけど、小さい子供たちも集まってくれましたので、だから、そういうものをもっともっとやっていかなきゃならないなと思って。

本当は上の子供たちを引っ張り上げるのはすごくいいと思いますけど、下の子供たちをやっぱり見捨てないでほしいと思います。そこをやっぱり、何かうちは下の子供たちが多いので、一番感じるのだと思いますので、すみませんけども、そういうところを、今後、市政の中でも考えていっていただければありがたいなというふうに思いますので、すみません、ちょっと長くなりましたけども、お願いします。

○司会 ありがとうございます。

まず、学校が遠いというところ、それから交通手段もない、それから子供たちのヤングケアラーの関係で評価が、そういうのが入っていないというような部分で、教育委員会のほうから何か回答できませんでしょうか。

◎**教育部指導室** 教育委員会の指導室、菊池と申します。

今、お話のあった通学路のこと、それから特にヤングケアラーの生徒のことですね。こちらでまだ事情、細かいところを把握できていない部分もございますので、学校と連携を取り、確認をさせていただいてから、そちらのほうも回答をさせていただきたいと思います。

以上でございます。

○**司会** それから、交通手段ということで、無人バスの話も出ましたけれども、その回答をいいですか。

◎**まちづくり推進課主幹** 苫小牧市で乗り物を担当しています村上と申します。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

いろいろ運行の手段の話とかもされていましたが、昨今、報道でもよくなされておりますが、運転手不足というのが非常に進んでございまして、それで今回、私たちの市も、10万以上の北海道の市でも初めてとなると思うんですが、この自動運転というバスを挑戦させていただきました。延べ1,359名の方に乗っていただきまして、非常に反響もよかったというふうに思っています。

私たちとしまして、ただ、この自動運転に限っての話を言いますと、まだ完璧ではございませんでして、10名しか乗れないですとか、あとは時速20キロしか走れないですとか、なので、完全にバスとかタクシーのような代替手段にはならないですが、やっぱりこれにはこれの小回りが利くというような非常にいいメリットもあるというふうに判断してございます。

まず、北海道というこの気候といいますか、を考えたときに、やはりこのアイスバーンですとか、そういうところを走らせてみて、いわゆる冬季も含めてそうやって通年で走れるというところが判断できますので、来年度につきましては、何とかまず冬の時期を走らせていただきまして、その後この苫小牧市で十分走ることができると判断させていただいた後に、どこが走るのがベストだろうかですとか、そういうところを考えていきたいと思います。

以上でございます。

○**司会** ただいま、その他様々な意見いただいたんですけれども、こちらを持ち帰りまして、全て担当部署のほうにつなげたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

◎**市長** 昨年、苫小牧で初めて1年間で生まれてくる赤ちゃんが1,000人を切ったんですね。それまでの間、毎年100人ずつ減っていて、1,000人を切っちゃったということで、我々にとっても非常に頭の痛い問題ですけれども、強制的に子供をつくってくださいということはなかなか難しい、同時に例えば反対側ですから、樽前小学校では、特認校ですけれども、今年1年生がゼロ、地元からもゼロ、特認もゼロなんですね。

これの背景には、やはり子供たちの数が減っているという背景がありまして、そんな中でも学校を維持していく、あるいは子供たちに、特に義務教育課程は、同じような共通の教育環境で学んでもらう、友達と触れてもらうということを考えていかなければならないなというふうに思っていますが、本当にこれは、子供の数が減っていくというのは、苫小牧だけじゃないんですけど、国全体の問題ですけど、非常に頭の痛い問題です。

そういう中で、いかに子供たちに学びの場を提供できるかということについて、教育委員会も一生懸命取り組んでいる最中でありまして、我々市長部局もこの問題に関心を持って、いろいろ取

り組んでいかなければならないなというふうに感じています。

○司会 私のほうで、冒頭お一人につき1点ずつというお話をしましたけれども、お時間がありましたら、またもう一回、二回というふうに戻っていきますので、よろしくお願ひします。

それでは、次に、ご発言のある方、いらっしゃいますでしょうか。

◆市民 何にもないんだったら。

○司会 お願ひします。

◆市民 末広町内会の・・・と申します。

まず、一番最初に、ちょっとこの町内会とは関係ないことで発言してしまうので、町内会関係の方にはおわび申し上げます。

私のちょっと地区、住所はここ、末広なんですけども、やっている対象のところが樽前で、今回なかったの、ちょっとこちらのほうに参加させていただいたんですけど、私が今年度から新規就農者で、就農をしている状態で、栽培品目はヤチヤナギを栽培しています。今、新聞とか載っている苦小牧でビールができたというの、原料を卸しているんですね。

その新規就農に当たりまして、ちょっと大変個人的なことになるかもしれないんですけども、農地を借りる購入するというのは、市役所さんを事実上通さないとシステム的にできないんですね。それで、私はヤチヤナギを育てるに当たって、苦小牧市さんにもう何年も前から農地を将来的に売ってくれる方という条件で、農地を選別していただきました。それで、今借りている状況なんですけど、借りた際も農地として危機的な状態の農地だったんですね。今、はっきり言って、駐車場の礫のところに植物を植えているような状態なんですけども、それでも農産物を出していくに当たって、加工場を建設しなければ、出荷が難しいので、農地を必ず購入するという形で、その農地を借りたんですけども、その農地の方が最終的に今現時点で売らないという判断をされたんです。

私は、まず、苦小牧市さんに売ってくれる方という形で探してもらうのを頼んだんですけども、売らないということだったので、今後農業を続けていくことがすごく難しいんですね。今、一生懸命、農業水産振興課さんのほうは、頑張っって新しい農地を探してはくれたんですけども、売ってくれるということだったので、投資をしています。それは、投資をするに当たって融資も受けているんですけども、その事業計画の中には建物を建てるということを前提に融資を受けました。今、そこが農地として、もう売ってくれないということは、建物を建てられないので、引っ越さざるを得ないんです。その引っ越し費用がもう投資をしてしまっって、100万円以上かかるんですね。

正直、個人でもう負担できる限界を超えていまして、苦小牧市さんの課のほうに聞いたら、個人間のことなので、関係がないとおっしゃったんですね。でも、私はその農地を借りるときに立会いができていないんです。苦小牧市さんが全部その農地に関しての相手側と取引して、そこでという形をしたんですね。

ちょっとあまりにも思っていまして、引っ越し費用を負担しろとは言いませんけども、せめて苦小牧市さんの課の中の仕組みはよく分かっっているの、不可能であれば、ほかの課さんもち

よっと交えた形で、引っ越しをできれば何らかの形で救済していただきたいんです。

ほかの道路維持課さんとかで、重機を持っているのを知っているの、それで引っ越すときにその農地を更地にするのに押したりとかですね、そういったのを手伝っていただきたいんです。個人的話と思われましても、実はヤチヤナギを栽培するに当たって、ヤチヤナギは、実は他の市町村さん、3市町村さんぐらいが同時に手を挙げて、いや、栽培の誘致をしたいというので手を挙げたんですけど、私を含め、苫小牧の企業さん、あと、苫小牧市の環境生活課の武田課長さんがすごく頑張っていて、苫小牧へというふうに誘致を勝ち取ったんですよ。

ですので、このヤチヤナギを苫小牧市さんの名産にしようと思っているので、私個人だけじゃなくて、絶対に失敗できないんですよ。ヤチヤナギに関して言えば、国で初めて栽培農家として認められたので、絶対に続けたいんです。

ハスカップの件もあるので、苫小牧で地域資源を使ったという植物を絶対的に使っていきたい、苫小牧市さんの観光と工業が共生するまちを目指している中で、とてもヤチヤナギは有効活用ができる植物なんですよ。

今、一番最初にやろうとしている農家が、私が転びそうなんですよ。できれば、できる限りの、今、一生懸命、樽前地区の農家さん、個人個人が一生懸命その救済に当たるために頑張っている中で、苫小牧市さんのみが何かをやってくれるというのを拒んでいる状況に思えるんです。であれば、可能な限り、何らかの形を取っていただきたいというのが要望です。

◎市長 これ、武田君がよく事情を知っているんでしょう。

◆市民 いや、多分農地のことに関しては、栽培に関しては分かっているんですけど、今の農地に関してというのは、ご迷惑をかけたらと思ってあまり話してはいないんですよ。

◎市長 そうですか。どっちにしても、農地については農業委員会を通らなければなりませんよね。

◆市民 はい。

◎市長 農業委員会でどの程度把握しているのか。あるいはその地主さんがどういう事情で、最初は売ることを前提にしていたのが。

◆市民 そう、売るということだったということは、ご本人も。

◎市長 その辺の事実関係を僕もよく確認した上で、前に進めるのか進めないのか、進めるとしたら、やはり農業委員会を通さなければならない。そのことと、栽培、ヤチヤナギは、これ、もうビールをスタートしていますから。

◆市民 そう、だから、転べないんですよ。絶対的に私が辞めた時点で、1社を潰す形になってしまうので、できれば続けたいです。そのときの再編に何か今の農業を遂行する形を、スムーズに行う形を取っていただきたいんです。

◎市長 分かりました。少し時間もらって、名前と連絡先だけ言っておいてね。

◆市民 よろしくお願ひします。

○司会 後ほどお名前と連絡先、教えてください。

◆市民 はい。

○司会 その他、ございますでしょうか。

よろしいですか。まだお時間がありますが、2回目という方でも結構ですが、いかがですか。

◆市民 2回目でもいいんだったら、あるんですけどね。だけでも、あまりにもという、ずうずうしいような感じもするので。

先ほどから言ってあれなんですけれども、もう何回も申し訳ないと思います。ただ、いろんなことをやっていただいていますので、私としてはもう非常に言いたいことはやったんですけども、今回出したことに対しての回答がみんな行政的な回答だけで、もう本当にどっちかと言ったら、何にもできないみたいな感じな回答だけだったものですから、それにつきまして、あれだったんですけど。

あと、やはりもうちょっとやって、去年科学センターからAIの機械を借りたんですけども、やっぱり分かっている方は分かっているんですけども、なかなか借りられるとかなんとかというときに、今回もできれば、クリスマス会でも借りたいなとか、あそこでそのAIの機械があるのが知っていて、余っているみたいな感じで言ったら怒られるんですけど、それをもっと有効的に使って、子供たちに見せてあげたい。

そして、簡単なスクラッチみたいなプログラムが小学生でも組めますので、そういうもので組んで、一緒にお勉強させてあげたいと、そういうのをやっぱりやりたいので、町内会にも貸していただけるものは、この前は5月は無理を言って借りたんですけど、今後お願いいたしたいなという感じであります。

そして、あと、あれを、ネットの関係で、今、この間、町内会のホームページで私のところでブログ、ありますというのを、上げてくれてはくれたんですけども、非常にありがたいなと思っています。それは。

ただ、一応2次元バーコード、ちょっと、いわゆるQRコードでしか見られないような、ネット自体をあちこちつないで、例えば町内会のホームページに行ったら、フェイスブックじゃないと駄目だと言われちゃったんですよ。

実際問題として、物がどんどん変わっていく中で、苫小牧は少なくとも北海道においては、今度いわゆるラピダスなんかもありますので、もう一番先頭を行かなきゃならないところだと思うんですよ。

だけでも、そういう中で、やっぱりいろいろな物に変わっていくときに、やはりそれについていていただけるような変わり方がしてくれると、非常にありがたいなという感じはするんですけど、私は、いわゆる取りあえずブログで上げて、ちょっとユーチューブも、初めは市長のユーチューブを借りようかと思ったので、というのは、あちこちに皆さん上げているんですけど、私は自分自身で上げることは可能なんですけど、ほかの町内会でも多分そんなにはいないと思うんです。

いろんな人がやっていて、やっぱりそう思いますので、だから、その辺については、もうちょっとICTという話じゃなくて、ブログとかというよりも、そのWi-Fiをつけてくれないか、それからやってくれないかということを一応。そういうものにもできる限り目を向けて、予算をつけて。

子供たち、パソコン教室でも何でもやっている中で教えたりなんかをするときに、やっぱりネ

ットにつなげるといのは非常に大事なので、維持費だけでも持っていただけるとありがたいなという、私としては気がするわけなんですよね。

だから、その辺のところにも目を向けていっていただきたいなというふうにちょっと思いますので、フェイスブックはメタバースというふうに名前があって、いわゆるVRとかいう、別な分野のところ为主体になってこれから来るといいますので、ですから、必ずしもフェイスブックは残りますけども、ほかのものも町内会のやつにはリンクして、それぞれの意見を話していただければいいかなと思っておりますので、その辺のところ、もうちょっと融通をいرونなところに利かせていただければということで、すみません、お願いしたいなと思っております。どうもありがとうございます。

○司会 ありがとうございます。

まず、一つ目の科学センターの機器の貸出しにつきましては、今日来ておりませんので、科学センターのほうに伝えておきます。

◆市民 はい。

○司会 それから、次の町内会からの要望の中にある二つ目の項目に関係するWi-Fi等々のお話だっと思っておりますが、回答はできますでしょうか。

◎市民生活課長 市民生活課長の畑島でございます。

ご要望の中にもございましたWi-Fiの設置、あとは町内会館の維持費の負担というところになるかと思っております。こちらのほうにつきましては、やはり町内会の加入率とかもなかなか上がらない中で、各町内会のほうで維持管理、ご苦労されているということは重々承知しているところではございます。

そのような中で、なかなか全町内会さんにこのような設備のほうの負担を市のほうで今するというのは、前々からちょっと負担も市のほうとしても今大きい状況で、各町内会のほうにその設置の負担を、この状況の中でもお願いをしているところに至っております。

そのほかにも、あと、ホームページのQRコードのお話もございましたが、こちらにつきましては、まず、今、町内会の連合会のホームページを通じてという形で掲載をさせていただいております。市の公式ホームページとはちょっと違う、今、掲載という形を取らせていただいておりますので、ここの部分、なかなか各町内会でご紹介ということで、数もたくさんございますので、どこの町内会だけを毎回毎回突出してPRというわけにはいかないんですけども、町内会の活動の周知の方法については、今後とももう少し町内会連合会のほうともお話をしながら、ちょっと考えさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

◎市長 今、もう本当に1歳児がタブレットでやっている時代ですから、小、中学校はもうみんなタブレットをあれしていますけど、何かエアポケットになっているような感じがしますが、1歳児は極端としても。

ただ、そういう場合に機器を今科学センターというふうにおっしゃっていましたが、そういう時代のニーズとして、それは科学センターがいいのかどうかということも含めて検討していかなければならないなというふうに思いますね。我々が思っている以上に、IT化がもう進ん

でいるんだと今でも思っていますので、そんなことを今、思いながら聞かせていただいていた。

○司会 その他、ございますでしょうか。

◆市民 まだいいですか、ちょっと。

一つ、お伺いしたいのは、私、独り親で低所得世帯なんですけども、市役所さんのいろんな補助を受けられるのに、あなたは低所得者ですという紙は来るんですけど、就学援助金だったりというのがありますよね。

あの制度は、所得じゃなくて収入になっているんですよね。それで言うと、私は低所得者に入って、所得は少ないのにその就学援助だけが収入で切られているんですよ。ですので、私みたいな農家とか個人事業主は、補助金をもらったりとか、申請はあるんですけど、すごくお金が出ていって、所得はすごく少ないのに、今年、私、息子が小学校1年生だったんですけど、その就学援助のものからは対象から外れているんですよね。

実際的に言うと、その就学援助を受けた人より、年間で言ったら8万円ぐらい損する形になって、全部自腹で用意したんですよ。でも、正直に言って、生活がきつい状態で、もう苦渋の判断で、申し訳ないですけど、児童センターも辞めたんです。2,500円も払えないんですよね。なんだけど、就学援助のやつだと、そこは正直な話、世帯に認められた場合は免除になるのに、実際は所得がないのに、そこは受けられないという状況なんですよ。

独り親の補助のところとかは、いろいろ控除をされていますので、養育は何割とか、こういうのも引いていいですというのがあるんですけど、就学援助のところは320万円か何かなんですけど、昨年ちょっと一応残業とかでちょっと超えてしまったんですけど、絶対的な収入で言うと、個人事業もやっているんですけど、個人事業は収入はあるけど、基本的には下請さんとかにお金を払って、私は管理みたいな感じなので、本当にちょっとしか自分の手に入ってこないんです。

でも、それも収入にみなされてしまうので、何か目に見えない貧困が実はここには存在していて、そういったのを実態はどうなのかは分からないんですけど、そういう人は多分いらっしゃるんじゃないかと思っています。

◎市長 個人事業主なんですよ。

◆市民 そう。

◎市長 だからじゃないかな。

◆市民 いや、そうなんですけど、事実上、職業も全然言っても構わない、樹木医で工事で15万円とかを受けても、1日の管理と言ったら、自分に2万円も入ってこないけど、それ、収入になるけど、下請にその大きい額を払うじゃないですか。そうしたら、それが収入になってしまうんですよね。税金で言ったら、もう低所得者になっているから、もう本当に年間で言ったらびっくりするぐらいの収入しかないけど、外れちゃうんですよ。

◎市長 それ、税務署が間違っているんじゃないか。

◆市民 いや、要は受け金額は大きいけど、自分に入ってくるお金は少ないですよ。

◎市長 でも、収支は出している。



◆市民 それで、一応就学援助が収入になっているから、所得じゃないですよ。所得の部分で言ったら、もうすごくいわゆる低所得者枠に入るんですけど、要は支払い金額が多いということです。

でも、収入のところと言うと切られているので、市の、いわゆる受けられるのが収入だったり、所得だったりというので差があって、そういう状況が起こってしまっているの、そういうのは、例えば、だけどこういうふうなんですよという証拠を持っていったりとか、要は確定申告をしていますからというので、例えば、補助、援助対象に入れてくれるというのとかをしてくれないのか。してくれるのであれば、そういったものをホームページとかに記載してほしいんですね。

◎市長 いや、だけど、今日はちょっとそこに詳しい顔ぶれが一人もいないので。

◆市民 そう、収入と所得で大きく差があるという。

◎市長 教育委員会にはご相談とかはされましたか。

◆市民 いや、もうちょっと会社の仕組みで、うちの元市のOBの方とかがいらっしゃるので、こうなんですよねと言ったら、いや、無理だねと言われたから、ああ、そうですかと言ったら。

◎市長 分かる。

◆市民 そう、だから要は何か線を切っている場合が、物によって、所得だったり収入だったりというので、全然違うという。

◎市長 ちょっと詳しい人間を探して、相談先を紹介するので。

◆市民 多分、何か他のお母さんも言っている人がいたんですね。

◎市長 個人事業主の場合。

◆市民 法人の方は結構いる、そういう人というのは言っていて。

◎市長 分かりました。二、三日以内に連絡します。

◆市民 急ぎではないので、もう何とかやっていくので、ただほかの何かある人が、今後個人とかでやる人が多分増えていらっしゃると思うんですよ、世の中に。空いた時間で働いたりとか、多分手作りを売ったりしている人たちもいらっしゃるの、市によって、基準の場所がすごく曖昧なのがよく分からないというのを、できれば改善していただければと思います。

◎市長 ただ、市の裁量でできることではないので、でも、何が問題なのかというのを詳しい人間でないと分からない。だから、連絡させますから。

◆市民 はい。

◎市長 相談できるよう、窓口を。

○司会 後ほど連絡先を教えてください。

そのほか、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、いらっしゃらないようですので、これで意見交換を終了させていただきます。

最後に、本日のまちかどミーティングの終了に当たりまして、岩倉市長よりご挨拶させていただきます。

◎市長 テーマプレゼンテーション、そしていろいろご意見、ご質問等をいただきまして、ありがとうございました。

本当に何か壁にぶつかっている方に対する対応は、市が直接できるかどうかは別として、しっ

かりドアをたたける。そのドアを紹介していきたいというふうに思っていますし、何かあったら、ぜひ町内会長さんとか、今日市会議員の皆さんがいらっしゃるので、それも市会議員の仕事でありますから、ぜひ何でも声を届けていただければなというふうに思います。

ちょっと肌寒い中、最後までお付き合いをいただきましたこと、心から御礼を申し上げまして、まちかどミーティングを終えさせていただきます。ありがとうございました。

○司会 それでは、以上をもちまして、まちかどミーティングを閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。